

三〇

淨書白し夕上別紙ノ部精査ヲ要ス

八月二十日起 案
九月二日 假付濟

軍務局長 柳

局員 柳

柳

供覽



明治三十三年九月二日

海軍省軍務局長

侍從武友

志冬通

東京支友

東京附近水災救護ニ関スル件

本月十三日内務大臣ヨリ前者大臣宛東京附近水難救護
ノ為出兵ノ依頼有之即夜横須賀鎮守村司令官長官へ無
銃隊一箇中隊ヲ派遣スヘキ旨訓令ヲ發セラシ同鎮守村
於テハ急遽其編制ニ着手シ同派遣隊ハ海軍支隊上龍羽
金指揮ノ下人員約百五十名同夜十時頃ヲ以テ出發海
路横濱ニ向ヒ十四日午前一時頃横濱着汽車ニ上京ノ途
ニ上リシカ鐵路浸水ノ為メ鶴見以東ニ進ムコト能ハス止ムヲ得

軍第三七七號

北城精

又橋渡に引返して海路入来ラ圖リシモ川波烈シク危険ニ
 テ羽根田燈臺を以て進航スル能ハス再ヒ橋渡に引返ス
 ノ上ハナキニ至リ再ヒ大型商船ヲ艀シテ出発同日午後一時
 以て豊島岸島ニ到着同夕刻ヨリ直ニ尖害地ニ出張救護事
 業ニ従事セリ而テ其ノ従事箇所及事業ノ経過ハ大約別
 紙上龍指挥官ノ報告通リニシテ晝間ハ二箇小隊人員約
 百名夜間ハ一箇小隊人員約五十名右従業セリ尚右救護
 隊ハ去ル十八日ヲ以テ海軍少佐加村康政ノ指揮セシ一箇中隊
 無鏡隊（A.H.C.）交代シ引續キ同様ノ任務ニ従事シヨリ右
 外橋渡候館子村ノ北東ハ海上ニ於テハ生命財産等救
 護ノ為メ水雷艇ヲ派考セラ方右ニ突クニ報告ハ別紙ノ通
 右ノ如ク参考通知ス

（別紙三）（係）

△
 大カニ二十日ヨリ至リ
 意ヲ以テ水雷艇ノ狀
 況ヨリ中隊ノ即
 カニ要スルハ至リ
 二例ノ復命書ヲ
 送リテ附シテ
 送付スルハ至リ
 送付スルハ至リ

明治四十三年八月十八日

水災救護隊指揮官

海軍少佐 上瀧羽金

海軍大臣男爵齋藤實殿

水災救護事業經過概況件

水災救護事業經過概況別冊ノ通りニ候

右報告ス

別冊一綴添

終

海軍

水災救護事業ノ経過概況

八月十四日午後入京直ニ馬喰町ニ宿営ス東京府ニ事務者ヨリハ
當日ハ差當リ休養ノ上前夜来ノ疲労ヲ醫シ明十五日ヨリ救護事
業ニ着手セラレタキ旨申出アリシモ寸時モ空過スヘカラサル時期ナルヲ
以テ強テ即日救護事務ニ從事シ度旨申出アテニ主務者ニ於テハ
未タ方針決定シ居ラサルモノノ如ク夕刻ニ至リ協議ノ結果初メテ
左ノ諸項ニ從ヒ從事スルコトニ決定セリ

一、救護地点。本所国技館及深川東川小学校ニテ罹災者

出シ場 救護所、亀井戸方面ニアル天神橋、七ノ橋、五ノ橋ノ各炊キ

二、兵員ノ配置。国技館ニ〇名、東川小学校一五名、亀井戸

方面三ヶ所一五名

三、救護事業。国技館救護所ニ於テハ所内ノ取締リ警戒出

入者ヲモ、老幼ノ用便ノ案内保護、湯沸シ、食糧品日用品ノ配給其他ノ雜役

但右事業ハ館内出張ノ吏員ト似同実施ス

東川小学校救護所ニ於テ右事業ノ外ハ扇橋合署間ノ通船員ヲ兼ヌ

龜井戸方面ノ炊キ出シ場ニ於テハ小舟ヲ以テ飲用水食糧ノ運搬配給及炊事ノ補助ニテ兼テ避難者ニハ收容ス

今日午後七時右作業ニ要スル人員トシテ一ヶ小隊及中隊附員ノ内厨宰主厨各一、掌角兵看護等ヲ併セテ指揮將校松田中尉共五十六名作業地点ニ向ケ出發ス

馬車ヲ以テ向島ニ集メタル小舟及酒樽ヲ天神橋ニ運搬シ全部配置ニ就キテ翌十五日午前〇時五十分ナリ

救護事業ハ昼夜兼行シテ三直トシ毎日朝夕二回一ヶ小隊宛

交代作業ニ従事セシムル事ニ豫定シタルモ十四日夜ニ至リ東京府
属梅田穎三郎氏来リ亀井戸方面ヨリ中川ヲ越エテ大島附近ニ至ル
地点ニ專ラ飲料水ノ供給目的ヲ以テ十五日早朝ヨリ更ニ兵員四十
名ヲ要求シ且ツセニ要スル小舟ハ十五日午前五時迄ニ向島枕橋ニ準
備スルコト及今届ハ今時刻迄ニ合地ニアルヘキ約アリシモ十四日夜
十時頃マデニハ舟艇ノ準備完カラヌ
十五日午前四時半起床五時頃ヨリ第二直トシテ柏木中尉ノ率ヲ
ル一々小隊ヲ作業地点ニ派遣交代セシメ又郵部被害地ニ給水ヲ為
第三直ノ武川少尉ノ小隊ヲ派遣セリ然ルニ小舟ノ準備完全セス又枕
橋ノ水道栓ノ鍵ハ梅田属携帶シテ其ノ地点ヲ去リ空ニク時間ヲ
費シ終ニ美神橋ニ合併セシム
十五日午前九時半次車系府内務部長代理ヨリ電話ヲ以テ亀井
戸方面ニ當一五名ノ援助ヲ求メ来リ恰モ指揮官作業地点ニ至

リ不在ナリシモ合時刻前ニ枕橋方面ノ一ヶ小隊ヲ壘井戸天神橋ニ派
 遣セシヲ以テ偶然ニモ其ノ求ニ應スルヲ得タリ
 救護事業ニ関シテハ各主務廳ニハ殆トト連絡ナク各方面區々
 行ハレ居ルモノノ如シ
 飲料水配給ノ方法ハ小舟ニ四斗樽二個乃至四個ヲ搭載シ水兵
 二名乃至三名ヲ以テ浸水地ニ楫弄ム求ムル所ニ合共ス水ハ天神
 橋側ノ水道栓ヨリ「ホーズ」ヲ家屋ノ軒ニ導キ小舟ヲ以テ容
 易ニ四斗樽ノ容器ニ充水シ得ヘシ
 十五日壘井戸方面ニ於テハ午後稍増水シ且ツ罹災者多少水害ニ
 馴レタルカ餘リ要用モナキニ危険ナル小艇筏等ヲ擧リ縱横ニ徘
 徊スル者アリテ通路狭ク流レ早キ処或ハ曲リ角等ニ於テ衝突
 顛覆スル者アリ為メニ負傷者少ナカラサルノミナラス老人小兒等ニ
 シテ溺死セシモノアリ我救護隊ニ於テモ筏ヲ踏ミ外シ顛落シタル老人

ヲ救ヒ上ケシニ顛落后僅カニ五分ヲ經過セシ過キサリシモ既ニ氣絶セル
 ヲ以テ直ニ救急法ヲ施シ醫士ノ来ルニ會シテ引キ渡セシカ終ニ死
 亡セシモノアリ又入水后ニ三日ヲ經過シタル死体ヲ引キ揚ケ吏員ニ
 引キ渡シタルアリ
 龜井戸方面ニハ靴着ハ洗足ニテ動作不便且危險ナルヲ以テ五日ヨリ
 草鞋ヲ用ヒシム
 隊員衛生ノ状況ハ頗ル佳良ナレトモ二三輕微ノ腸カタル患
 者ヲ出セリ也レ作業上終日身体殊ニ腹部ヲ水ニ浸シタルカ爲
 ナルが如し
 兵員控所ニハ無住居ノ浸水家屋ニ階ヲ建ニテ瓦ツ蚊帳ノ準備ナ
 ク衣類湿润シ頗ル困難ヲ感ス
 事業ノ都合ヨリテハ夕刻ノ交代者ハ夜土時ヲ過キテ飯營セシコトア
 リ

但し昼間ハニケリ隊事業ニ従事シ夜間ハ一ケ小隊出動スルヲニ定ム
 十五日ヨリ東川小学校救護所ノ事業ニ従事スル者内ヨリ由人
 ノ至五人ヲ割テ東町幼稚園救護所ノ雑役ニ従事セシム
 十六日亀井戸方面ノ水量ハ前日ト大差ナシ夕刻隊員ヲ六切
 盗一名ヲ捕ハ警吏ニ引キ渡ス其ノ他状況前日ニ異ナラス
 隊員ノ作業スル救護所ニ收容スル人員概ネ左ノ如シ

國技館	七〇〇人
東川小学校	一一〇〇人
東町幼稚園	五六〇人

右收容員數ハ概畧ニシテ實際ノ員數不明ナリ收容セラレタル
 必者ノ内漸次減水スルニ從ヒ一言ノ挨拶ナラシテ段宅スル者アリ或ハ
 食糧等ノ配給ヲ受クル時ニ於テ其ノ居坐ヲ変シテ再三ノ配給積
 ラントスル者アルヲ聞ク然レ兵員ヲ使用スルハ幾分其弊少カシム

十七日 毫井戸方面ノ水量漸ク減シ十六日ニ比シ約五六寸低下セリ

隊員衛生状況

八月十四日、外傷二名 (内一名小傷止メ) 合計二

八月十五日、外傷一、内症三、合計四

八月十六日、外傷二、内症三、合計五

八月十七日、外傷九、内症三、(休業一) 合計一二

右外傷中多クハ輕微ナル擦過傷ニテ内症ハ急性腸胃カタルナル

比一日ヲ經過シテ全治スルモノ多シ要スルニ不潔ナル浸水軒ニ達スルカ

キ地点ニ於テ着衣浸潤スルモ更衣ナクカフルニ天候不良ノ際過度ノ

労働ヲナスニ拘ハラズ如上ノ衛生状況ハ良好ナルモノト云フヘシ

軍規風紀

隊員一同熱心事業ニ従事シ軍規風紀共ニ良好ナリ

海軍

右救護隊編制左ノ如シ

指揮官

海軍少佐

上瀧羽金

小隊長

海軍中尉

松田昌正

同

同

柏木質

同

同 少尉

武川雄一

軍醫

海軍少軍醫

勝正夫

主計

海軍少主計

日高嘉七

下士

十六名

率

百三十三名

海軍

(分隊員)

明治四十三年八月二十日

水災救護隊指揮官

海軍少佐

加村康政

海軍大臣 野澤 齋藤 實殿

水災救護事業經過概況報告件

(一) 第二次水災救護隊編制左如し

指揮官

海軍少佐

加村康政

小隊長

海軍中尉

山中順一

同

海軍少尉

矢持輝治

同

海軍中尉

力也敏三郎

海軍 員

軍醫

少軍醫

勝正去

主計

少主計

日高嘉七

外

大軍醫

今澤正名

(十九日付増)

下士

六十名

卒

七十九名

横須賀出發以來水災救護隊ノ動作

(二) 六日ノ概況

一 横須賀鎮守府司令長官代理ノ命ニ依リ午前七時三十分自濱海岸ニ集合前記ノ部隊ヲ編成シ三浦共立運輸株式會社汽船第三號ニ乗船七時五十分按錨崖岸島ニ向フ船内ニ於テ總員ヲ集メ派遣隊ノ目的任務救助心得及軍紀、風紀、衛生上ニ關シ訓示ヲ為ス午後零時

三分永代橋下流ニ投錨前派遣隊指揮官上瀧少佐、士官及東京府事務官鈴木隆代理府属関誠、東京市長代理助役原田十衛ノ案内ニ依リ午後一時三十分日本橋區馬喰町三丁目ノ舎營ニ着ス

一、旧指揮官ヨリ水災救護ニ関スル本日迄ノ経過一般概略

ノ申進ヲ了シ午後二時三十分出發、同指揮官小隊長同道

ニテ小隊ヲ率ヒ交代ノ為ノ配置地点ニ向フ

本日ヨリ明十九日朝ニ至ル迄ノ配置ヲ先ツ從前ノ通ト定

メ各地點ニ至リ新派遣隊員ヲ配置シ交代セシム

午後四時交代完結ス

一、兵員ノ配置、勤務、作業等左ノ如シ

亀戸方面

天神橋炊出場

下士ニ於テ率二十名

吾婦橋(堤橋)炊出場 下士一名 卒十名
 五ノ橋炊出場 下士一名 卒十名
 本所深川罹火者救護所

本所國技館 (收容職員 七〇〇人) 下士一名 卒二十名

深川東山小学校 (收容職員 一四二九人) 下士一名 卒十名

全東街幼稚園 (收容職員 四〇〇人) 下士一名 卒十名

萬戸方面八午後八時三十分事業終了セシテ以テ派遣隊ヲ撤去
 シ九時十分宿舍ニ帰着ス

救護所ハ國技館ニ一ヶ分隊、東山小学校ニ五名ヲ残シ徹

宵勤務セシメ他ハ午後九時ヨリ十時迄ノ間ニ夫々勤務ヲ撤

シ帰舎ニ就カシメテ九モ幼稚園ハ先方ヨリ宿直ニ必要

ナキヲ云ヒ深川分署モ密接スルヨリ夜間ノ勤務ヲナシス

救難作業ハ萬戸方面ニ在リテハ府市吏及警察官吏ト協力

ヒテ通船ノ取扱、水、糧食、寄贈品ノ配給、炊出場ノ補助、應急
筏製作等ニ從事シ、救護所ニ在リテ、糧食、寄贈品ノ分
配及ヒ警戒ノ一部ニ任ス

一、配置地点視察ノ概略 本日視察スル所ニ依リ、罹災者救護
所ハ何レモ整頓第二期救護時代ト称スルヲ得ヘク、兎ノ方面
ハ尚ホ多大ノ努力ヲ要スヘキ慘状ノ有様ナリ、最高水面ヨリ既
ニ約ニ尺五廿位減水ニ居ルノ形跡ヲ認ムルモ、初メテ見ルモノニハ
豫想外ノ感ヲ深カラシメタリ

南葛飾郡吾嬬村ノ中妻彦市丸モノノ懇請ニヨリ吾嬬
村方面ノ概視ヲナセルニ、此方面ノ慘状ハ特ニ甚シク、殊ニ各主
務廳ノ連絡ナキ者カモ未ニ此迄ニ及ヒ居ラサルヲ認メ、府
吏ト協議ノ上、明日ヨリ大ニ助力スヘキヲ約セリ、要スルニ水害
地慘害ノ程度ト其救護事業ノ普及ハ及比例ノ實ヲ示

レ居ルヲ推察スルコトヲ得タリ

一、兵員ノ動作軍紀ニ風紀ニ健康状態ニ等

新交代員ハ交代ト合時ニ新タル銳氣ヲ以テ活動シ極力
作業ニ従事セリ殊ニ出来得ル大ニ擧げ上ルル故ヲ以テ

軍紀風紀上ノ点ニ強ク遺憾ナシ、本日一人ノ傷病者ナク健

康状態甚タ良好ナリ

(三)十九日ノ概況

一、午前四時三十分起床五時三十分出發右小隊ノ配置ニ就クト昨日

ニ合シ但シ右外昨日視察ノ結果南葛飾郡吾嬬村一園ハ水

際甚タ大ニテ其際状況ニ想像以上ニテリ且ツ今日迄唯僅

少ナ村民トシニ隻ノ小舟ニテ全ク外部ヨリノ助カナシテ救

助ニ従事レツバニ結果被害民ハ辛クシテ命脈ヲ保チツバ

ルノ窮状大ニ呈シ居ルヲ以テ府ノ当局者ト提議ノ上本日ヨリ此

此ニ新タニニケ分隊(下士ニ名卒ニ〇名)ヲ配置シ應急筱ヲ
造リ破船ヲ修復シ人民交通ノ便宜ヲ圖リ兼テ水糧
食葺ノ配給ニ從事セシメテ本地点ハ明日ヨリ晝夜共兵員
ヲ配置シ必要ニ應ジ更ラニ増員シテ極力救助ノ目的ヲ果
タス豫定ナリ

本日梟尾方面ニニケ小隊ヲ出動セシメ、救護所ハ一ケ小隊ヲ以
テ晝夜交代ニ勤務セシム

一、兵員ノ配置左ノ如シ

○晝間(作業撤去引揚八時、帰營八時四五分)

梟尾方面

天神橋炊出場	下士ニ名、卒ニ〇名、看護一名
吾嬭橋炊出場	下士ニ名、卒ニ〇名
五ノ橋炊出場	下士ニ名、卒ニ〇名

吾郷村請地一圓

下士二名、卒二名、看護一名

救護所

國技館

下士二名、卒一名、看護手一名

東川小学校

下士二名、卒一名

東町初推園

下士一名、卒一名

○夜間(午後八時より翌朝交代迄)

國技館

下士二名、卒五名

東川小学校

卒三名

○必要止 雜役員卒二名

一、本日軍醫官巡視中吾郷村ニ於テ溺水者二名アリ直ニ現場ニ出張手當ヲ施シタルニ一名ハ為メニ蘇生シ一名ハ遂ニ其効ナクテ死没セリ其ニ關係者ニ引渡セリ

一、勤務作業等ハ昨日ニ同シ

一、配置地遠巡視ノ概略

深川田向院方面ハ各救護所共ニ市吏、警察官及赤十字社員其他關係諸員多數出張シ諸設備モ一般ニ整頓シ居レハ兵員ノ配置ヲ漸次減シテ慘状甚キ亀戸、吾嬭村方面其救護勢カヲ増カスルノ考ナリ明日頃ヨリ実行セトス

龜戸方面ハ天神橋、吾嬭橋(旧北ノ橋ト云フ)五ノ橋各炊出場ヲ本據トシテ此三橋ヲ境界トセル三角帶區域ヲ受持テ救護作業ニ従事ス此附近ハ水深三四尺以上ニシテ浸水家屋上階又ハ家根ニ避難セルモノ頗ル多シ減水ハ甚ク徐々ニシテ昨日ニ比シ三四寸位ニ過キス此附近ニテ吾人ノ使用シ得ヘキ通船ハ其數甚ク少ナリ、約六名ヲ架セ得ルモノ二隻、三名ヲ架セ得ルモノ約八隻ニシテ重モニ水、糧食ノ配給、市吏人民ノ交通ニ充ツルモノニシテ海軍專用ノモノハ一隻モナシ故ニ必要ナル巡視

或ハ看護部員巡回各部隊間ノ聯絡如キハ只一時間其
 中一二隻ヲ使用シ得ル過キ
 南葛飾郡吾嬬村字請地方面ハ其位置稍ヤ遠隔ノ然ラニル
 処カ或ハ水勢地廣闊ノ爲ノ當然手廻ハノ兼ネタニヨルカ角
 府市廳ノ注意ヲ惹カサレモノノ如ク救護事業ヲ振ハス殊ニ
 其区域モ廣ク人家モ稍ヤ散在スルヲ以テ層救護ニ困難ナルカ如ク
 水深又大ニシテ五六尺以上ニ及ヒ丈余ニ達スル所又少ナカラス極メテ
 徐々ニ減水シツ、アルニハ相違ナキモ葛西川村ノ如キハ出水ノ皆同時ヨリ
 僅カニ五廿位ヲ減シテ過キス使用船舶ハ全体ヲ備カニ三四隻ニ過キス
 其不便困難ノ状態ハ天神橋吾嬬橋方面ニ比シテスラ数倍ス
 ノ有様ナリ本日我ニ上二名ノ兵員出張ヲ見テ吾嬬村ノ民ノ喜
 悦大方ナラス殊ニ葛西川附近一帯ノ住民ハ初メテ外部救助ニ
 遭遇シタリトテ我兵員望ヲ見タルノニテ大ニ勇氣ツケリト云フ

巡視中「御蔭様デ」御苦勞様デ等ノ挨拶ヲ云フモノアリ又敬礼ヲナ

スモナルヲ見テモ亀戸方面ノ是等ノコト皆無ナルニ比テ其窮状ノ

一般ヲ推察スルニ足ルヘシ明日ヨリ層増員ノ感ヲ深カラシメタリ

一、兵員ノ動作軍紀風紀健康状態等

作業ニ慣ルニ從ヒ確實敏捷ニ層熱心ニ努力ニツキテ

所村民ノ感謝ハ勿論見ル者ノ賞賛ヲ博シツキリ紀律又嚴

正一点ノ非難スヘキモノシ本日も一人ノ傷病者ナシ健康状態甚

夕良好殊ニ志氣益々揚リ尚ホ一層努力ヲナシ得ルノ余裕ヲ示

スモノ、如シ

一、海軍大軍醫今澤正冬本日午後四時半着

(四) 二十日ノ概況

一、午前四時半分起床五時半分出發各小隊受持地点ニ至リ作

業ニ從事セリ兵員ノ配置ハ略ホ昨日ニ全シ只東川小学校ニ派

遣セル下士卒八名ヲ引揚ケ之ヲ亀戸村吾嬬橋ニ配員セルヲ異

ナリトス

一、兵員ノ配置次ノ如シ

◎晝間(作業終結引揚午後八時 帰營午後九時)

亀戸方面

天神橋炊出場 下士卒二名 看護一名

吾嬬橋炊出場 下士卒二名

五ノ橋炊出場 下士卒二名 看護一名

吾嬬村方面

十間橋炊出場 下士卒七名

円通寺 下士卒八名

村役場炊出場 下士卒十五名

葛西川炊出場 下士卒十四名

救護所

國技館

下士卒 二名

看護手 一名

東町幼稚園

下士卒 二名

○夜間

國技館

下士卒 八名

午後八時ヨリ翌朝交代迄

吾嬬村

下士卒 二名

昼間作業ニ従事セシモノノ内半数ヲ役場ニ合當セシム

○外ニ雑役及傳令卒三名

○軍醫官二名ハ看護二名ヲ率ヒテ諸所巡回治療ス

一、各地流ニ於ケル状況及救護事業ノ経過

○亀戸方面

昨日迄ハ減水甚ク徐々ニテ救護事業モ猶數日ヲ要スルニ慮考ヒテモ下流堤防人力決潰ヲ断行セシメ為メカ本日ハ減水意外ニ著ク土地比較的高キ處ハ既ニ徒渉シ得ルニ至リ水深大ニ減

ト難道路上約四尺五寸ニテ大人ノ膝部ヲ没スルニ過キス所
ニテ立川十間川等ノ諸川ノ水準面ハ道路ヨリモ既ニ六七寸
降下セルヲ以テ是等諸川ノ河道ハ全ク減水シ通行自由ナリ

減水著シク交通便利トシニ從ヒ家財取片付ケノ為ニ帰宅
スルモノ及諸種ノ慰問者又ハ寄贈品ノ分配ニ從事スルモ益
々多ク諸般ノ救護事業ハ漸次完全ニ行ハレツハアリ

本日臨時町會ヲ開キ會議ノ結果明日ヨリ全部町民ノ
ニテ救護事業ニ從事スルコトニ決定セル旨申出來リニヨリ
本日限り兵員ノ派遣ヲ中止スルコトハセリ

○吾嬬村

前回ニ報告セシ如ク此ノ方面ニ於テハ通航少ナク又外部助
ナキ為メ食糧水糧ノ配給ヲナス能ハス住民ハ僅カニ通航後
等ノ便ニヨリ炊出場ニ來リテ其配給ヲ受クルノ有様ナリトカ本

日ヨリハ更ニ兵員ヲ増派シテ四十四名トシ且ツ府ノ注意ニ促
 レ交渉ノ結果午後ヨリ傳馬船十隻ノ派遣ヲ得又「モスリン」
 會社ヨリ四斗樽十四個ヲ借入レセテ各炊出場ニ配給シ極
 カ糧食及水ノ配給ニ從事セリカフルニ陸軍ノ來援アリ救護
 事業モ大分活氣ヲ呈シ被害民漸ク安堵ノ色アリ午後
 七時晝間作業結了ス本日ヨリ役場員ノ懇請ニヨリ小
 隊長一名及ニヶ分隊ノ兵員ヲ役場ニ宿泊セシムルコト、
 シ交代警備及臨時作業ニ從事セシム、本日夕刻ヨリ
 降雨アリ中川増水堤防決潰セントスルノ虞アリ夜半ヨリ
 翌朝迄宿泊員全部村民ト共ニ大防遏作業ニ從事セリ
 ○救護所
 國技館、東川小学校及東町幼稚園共ニ益々整頓シ飲
 食物ノ給與并ニ傷病者ニ対スル設備充分ニ整頓セルモ多

洋 頁

人数ヲ收容セルコトハ混雜一方ナラサルヲ以テ猶一兩日間

ハ吾救護隊ノ援助ヲ要スヘシ

各地減水スルニ從ヒ避難者中帰宅スルモノ漸ク多ク收容

人員モ益々減少レツアリ

一、勤務作業ハ各方面共前日ニ合シ

一、省護却ノ事業

國技館ニ毎日省護手一名ヲ派遣シ出張ノ赤十字社員

ト協力傷病者手當ニ從事セシメ又虜戸及吾嬭村方面ニ

各一名ノ省護ヲ出張セシメノ全様手當ニ從事セシムル外

大軍醫少軍醫及省護二名ハ端井ニテ虜戸及吾嬭村

一因ヲ巡回シ午前六時半ヨリ日没迄治療ノ依頼ニ應ヒ

リ本日手當ヲ施シタルモノ四十二名ナリ

一、兵員ノ動作、軍紀、風紀、健康状態等

連日過多ノ労働ヲナセルニ関ラヌ毫モ疲勞ノ色ナク紀律嚴正益々奮勵勤務ニツキアリ健康狀態甚々良好一人ノ傷病者ナシ

(五) 二十一日ノ概況

- 一、午五時起床全六時出發
- 一、本日ノ配員左ノ如シ

○ 晝間

吾嬬村方面

圓通寺炊出場

下士卒三三名

村役場炊出場

下士卒二二名

葛西川炊出場

下士卒二二名

十間橋炊出場

下士卒一九名

看護一名

救護所

國技館

下士卒一名 看護手一名

東町幼稚園

下士卒一名

○夜間

國技館

下士卒一名

吾嬬村(役場宿泊)

下士卒二名

(倉間派遣せしモノ
ノ内リ残衛)

○外ニ雑役三名

○軍醫官ハ看護三名ヲ率ヒテ諸所巡回施療ス

一、配置ノ撤去、配置点ノ概況

東川小学校ハ整頓ノ為メ混雑比較的少ナキト且ツ避難者中ニ

赤痢患者及致生セシヲ以テ當局者ト提議ノ上本日ヨリ兵

員ノ派遣ヲ中止セタリ

國技館及幼稚園ハ前日ニ合シ

毫厄方面(天神橋、吾嬬橋、五ノ橋)ハ愈々本日ヨリ當局者

ノニニテ救護事務ヲ取扱フノトナリタルヲ以テ我救護隊ノ派

遣ヲ中止セリ

右派遣中止ニ依リテ得タル人員ヲ更ニ前日ノ吾嬭
村派遣隊ニ加ヘ強ント全カラ擧ケテ吾嬭村ノ救護ニ
勉メタリ本日モ陸軍ヨリノ助カアリ又府廳ノ救護普
及シ来リ救護事業ハ先ツ行キ渡リ居レリ此附近モ
本日ニ至リテ可ナリ減水シ水深平均三尺乃至四尺五寸
ニシテ昨日来避難者ノ滞リ来ルモノ数多アリ諸般ノ設備
著シク整頓シ来リ明後日ニ至ラハ全ク外部ノ援助ヲ待タス
ニテ救護事務ヲ取扱ヒ得ルニ至ルヘント信ス
前記各方面ニ於ケル事業ハ前日ニ同シク日々發展シツアリ
吾嬭村ハ午後七時作業結了セシヲ以テ小隊長一名トニケ分
隊ヲ後場ニ残シ他ハ帰營セリ

一、看護部員ハ本日午前中ハ亀戸方面及大島村一四ヲ午後八時

送

送

1339

嬭村請地一町ヲ巡回シ治療ノ依頼ニ應シタリ此外國技館ニ
看護手一名吾嬭村ニ看護一名ヲ配置セルハ前日ノ如シ本日午當
ヲ施シタルモノ四十三名十四日以来合計百九十九名ナリ

午後二時半田通寺附近ニ於テ慰問品配給ニ從事セル救世軍
ノ一名水中ヲ徒涉中深ク陥リ行衛不明トナリレヲ以テ水
兵数名及關係者協力シテ搜索ニ從事シ約十五分ノ後死
躰ヲ發見シ今澤大軍医主任トナリ極力應急手當ヲ
施シタルモ遂ニ蘇生セス死躰ハ關係者ニ引渡セリ

一 救護隊員ハ規律正シク熱心ニ動作シ元氣ハ益々旺盛ナリ
衛生状態又良好ニシテ四、五名ノ受診患者アリタルモ比白
何レモ作業ヲ廢スルニ至ラス

(六) 二十二日ノ概況

本日國技館及東町幼稚園ニ各一ヶ分隊宛ノ配員ヲナス吾嬭村

六午前下士卒六十六名午後四十四名ヲ配員勤務セシメタリ、訓令
 ニ基キ從事中ノ救護事務ヲ東京府當務者ニ引継キ配置
 ラ撤去シ午後七時迄ニ全部帰營シ得タリ
 本日軍醫官ノ施療ニタルモノ六十九名、十四日以来ノ総計二百
 六十八名ナリ
 兵員ノ健康状態甚ク良好ニシテニ三名ノ受診者アリトモ至
 ラ輕微ノ風邪位ニシテ依然作業ニ從事シタリ

(終)

明治四十三年八月十六日

第三艦隊司令筒井為則

横須賀鎮守府司令長官代理

海軍少将坂本一茂

水害地海面警戒搜索報告ノ件

一東京湾内水害地海面警戒搜索報告 巻通

右提出ス

別紙巻通添付

(3)

海

軍

(全保用)

東京湾内水雷艇海面警戒搜索報告 第三艇隊司令筒井為則

明治四十三年八月十五日午前九時三十分團長ヨリ左ノ令達ニ接ス

一、六郷川、隅田川及江戸川等出水ノ多ク東京湾内ニハ尚ホ生命財産

等ノ救助ヲ要スルモノ少ナカラサル見込ナルニ依リ第三艇隊ヨリ水雷

艇一隻ヲ出シ第二艇隊ノ一隻ト協同至急前記諸川ノ沖合ニ

至リ救助警戒ニ従事スヘシ

二、今夜後泊地ヲ品川沖トシ何等発見スルトナク且ツ特令ナク

ハ明十六日日没前迄ニ歸港スヘシ

爰ニ於テ直チニ二十一號艇ニ至急点火ヲ命ジ休暇多ク生セル久員

ヲ長浦在泊ノ二十四號艇及横須賀在泊ノ二十九號艇ヨリ補充シ

淡水ノ搭載其他出港準備ニ着手セシム午前十一時四十五分出港

準備完成午後零時十五分鳴ノ出動準備成レルヲ以テ二艇ヲ引率

毎

頁

久保田信一

午後零時七分長浦出港十五海里ノ至急速カラ以テ別紙附番ニ
 示ス航路ヲ探リ羽根田沖ニ向ノ途中海水ノ混濁ト若干浮流
 物ヲ見ル午後一時三十分羽根田沖ノA地点ニ達ス是レヨリ速カラ
 ハ海軍ニ減シ開距離(四百米突)ノ横隊ヲ以テ番示ノ航路ヲ進
 ム六郷川尻ニ於テ海水甚ク混濁シテ茶褐色ヲ呈シ河水汎
 溢ノ状ハ一目瞭然ナリト虽浮流物トシテ零碎シ木片、葎蓆
 類及塵芥葎ノ漂フアルニシテ人畜若クハ其死屍或ハ財産
 ト認ムヘキ物件ノ漂流セルヲ午後二時二十五分島川沖ノB地点ニ達
 ス隅田川尻ノ状況又六郷川尻ト異ナラスト虽海水ノ混濁及浮
 流物共ニ稍々少ナキヲ認ム次ヒテ江戸川尻ニ向ヒ三時十八分C地
 点ニ達シ針路ヲ反轉ス江戸川尻ニ於テハ河水ノ混濁最モ甚クシ
 カリシモ浮流物ハ甚ク僅少ナリ四時三十分D地点ニ達シ碇泊ス
 前記セシ如キ海面ノ状況ニテハ特ニ川尻附近警戒要ナキカ如シト最

海 軍

或ハ他ニ艇隊ノ出張ヲ要スル点モアラサルナキマヲ確カクルメ自カラ
東京築地水上警察本署及品川警察署ニ至リ漂流物件ノ有
無及特ニ艇隊ノ出張ヲ要スヘキ地点アルヤ否ヤヲ質セシニ次記ノ
如キ回答ヲ得タリ

一、流失物ハ十日最モ多カリシモ皆ナ零碎ナル木片塵芥ノ類

ニ、財産ト認ムヘキモノ若クハ人畜糞ノ漂流セルヲ認メ唯タ

深川方面ニ少許ノ木材流失セリトノコトナリ

三、人体死屍ノ海面ニ顯出セシハ出水以來銚ヶ木林附近ニ四個アリ

シノミニテ又多数海上ニ流失セシトモ認メ難シ

三、特ニ貴隊ヲ煩ハシ度用件ニ就ヒテハ主務省トモ限議上明

朝署長參艦報知スヘシ

又ニ於テ念合本日搜索ノ結果ノ誤リナラサルヲ信スルヲ得タラ以

テ水雷團長ニ宛テ電報ヲ以テ搜索ノ概要ヲ報スルト共ニ豫定

海
軍

久保田

如く明日モ搜索警戒ヲ續行スヘキヤ各ヤノ指令ヲ仰ケリ

第二日

午前七時迄ニ出港準備ヲ整ヘ水雷團長ヨリノ訓令及水上警告表示
 署ヨリノ報告ヲ併ケシモ午前九時ニ至ルモ猶ホ何等ノ消息ナキ
 ラ以テ更ニ同方面ヲ搜索スルヲ決シ九時三十分出港 鷗ヲ江戸
 川尻方面ニ派シニ土俵艇ヲ率ヒ六郷川尻方面ニ向テ兩艇各四
 示ノ航路ヲ探リ搜索ニ從事セシガ海水ノ混濁及漂流物共ニ
 前日ヨリ甚ク減少セルヲ認メタルノ外何等得ル所ナシ午後零
 時三十分兩艇品川沖ノ番示E地点ニ會合漂泊午後一時再
 ヒ発動前日未ノ經驗ト漂流物ノ最モ多カリシハ十日ナリト
 ノ事ヨリ推スレハ沿岸ヨリモ却テ沖合遠クニ漂流物ノ多クハキ
 ヲ信シ番示ノ航路ヲ探リ開距離(五百米突)横隊ヲ以テ進航セ
 シニ第一海堡ヨリ夏島ニ至ル線附近ニ於テ最モ多量ノ漂流物

ヲ見シカ何レモ前日各河口附近ニ於テ認メシモノト異ナラス

シテ拾得ノ要ヲ認メサルモノノミナリ

前記セル如ク東京湾内ハ殆ント残心限ナク搜索セシガ終ニ生

命財産等ノ救助ヲ要スヘキモノヲ認メサリシニ依リ搜索ヲ止メ

午後三時十五分長浦ニ歸港ス

(附圖畧ス)

終

海軍

供覽

海



軍務局

救第四卷

明治四十三年八月十八日

水災救護隊指揮官

海軍少佐上瀧羽金

海軍大臣男爵齋藤實殿

水災救護事業經過概況ノ件

水災救護事業經過概況別冊ノ通りニ候

右報告ス

(別冊一綴添)

終

海軍

市川元八納

水災救護事業ノ經過概況。

八月十四日午午入京馬喰町ニ宿管又前夜来ノ疲カク

東京府主務者ヨリハ十五日ヨリ救護事業ニ着手ス

申上ルルモ十時ニ閉ルガカザル時期ヲ定メテ

小強テ為テハ井井甚多カク花山主務者ニ於テ私ガ

定シ居ラザルモノ如ク夕刻ニ至リ協議ノ結果也ノ諸項ニ從

ヒ遂ニ事マハキ事業ヲ決定セリ

一、救護地真。本所國技館及深川東川カ学校ニアル罹災

者救護所、亀井戸方面ニアル天神橋、北ノ橋、五ノ橋ノ

各口炊キ出し場、

二、兵員ノ配置。國技館ニ名、東川カ学校一五名、亀

井戸方面三ノ所一五名、

三、救護事業。國技館救護所ニ於テハ所内ノ取締ノ整

戒出入者ヲモ、走却ノ用便ノ案内保護、湯沸シ、食糧

品日用品ノ配給其他ノ雜役

但在事業ハ館内出張ノ吏員ト協同實施ス

東川ヲ學校救護所ニ於テハ、右事業ノ外、羽橋分署向

ノ通航員ヲ兼ヌ

毫升方面ノ炊事出シ場ニ於テハ、カ毎ヲ以テ飲用水倉程

ノ運搬配給及炊事ノ補助ニシテ兼テ避難者アルハ救

容ス

今日午後七時右作業ニ要スル人員トシテ一々カ隊及中隊附員

ノ内、厨室主厨各一、掌舟兵着着渡等ヲ係シテ指揮所長

梶田中尉共五十六名作業地矣ニ向ケ出帆ス

馬車カテ向島ニ集メカ毎及酒樽ヲ夫神橋ニ運搬シ、

部配置ニ就キシハ翌十五日午前〇時五十分ナリ

救護事業ハ昼夜兼行トラヌラ三直トシ毎日朝夕二回一
 カ隊宛交代作業ヲ遂行セシムル事ヲ定メタルハ十四日夜ニ至リ
 東京府係梅田類三郎氏来リ、滝井戸方御用ノ中川ヲ越シ
 大島附近ニ至ル地身ニ專ラ飲料水ノ供給目的ヲ以テ十
 五日早朝ヨリ更ニ四十名ノ人員ヲ要求セラルルカ
 十五日午前五時迄ニ向島枕橋ニ準備シ、南梅田係ハ全時刻
 直ニ在地ニアルガテ納アリシモ十四日夜十一時頃ニテニ舟艇ノ準備
 完カラス
 十五日午前四時半起床五時頃ヨリヨニ直トシテ柏木中尉ノ率
 フル一カ隊ヲ作業地身ニ派遣交代セシメ又郡部被害地
 ニ給水ノリヨリヨニ直ノ武川中尉少隊ヲ派遣セリ、然ルニカ毎
 ノ準備完全ニズ又枕橋ノ水道柱ノ鍵ハ梅田係指ノ帶
 シテ其ノ地身ヲ去リ空シク門向ラ置シ終ニ又神橋ニ合係セシ

ム

十五日午前九時半頃 在野内務部長代理ヨリ電報ヲ以テ電
井ニ方面ニ尚一五名ノ援助ヲ求メ来レリ 恰モ指揮官作
業地身ニ至リ不在ナリシモ 全時刻前ニ 枕橋方面ノ一々
隊ヲ電井戸ヲ神橋ニ派遣セシメテ 偏忽ニモ其ノ求メ
ニ應スルヲ得タリ

救済事業ニ関シテハ 各主務廳ニシテ 連絡ナリ 各方面区
及ニ行ハレタルモノノ如シ

飲料水配給ノ方法ハ 舟ニ四斗樽^ニ 滿ル^ニ 運出ヲ搭載シ
水舟ニ名付至^ニ 在^テ 以テ 汲水地ニ 構シテ 取ル^ル 所ニ 分
出ス^ル 水ハ 天紳橋側ノ 水道 柱ヨリ 「カース」^ラ 車^ヲ 家屋ノ
軒ニ 導キテ 舟ヲ 以テ 容易ニ 四斗樽ノ 容易ニ 取水シ得^ル
シ

十五日午後方面に於てハ午後稍増水し且ソ罹災者多少水害ニ
 馴レタルカ餘リ要用モナキニ危機尤小艇等ヲ操り縦横ニ徘徊
 スル者アリテ道路狭ク流レ早キ處或ハ曲リ角手ニ於テ衝突転
 倒スル者アリ焉ニ員傷者少ナカラスガレノミナラズ老人カ見守ニ
 シテ溺死セシモノアリ 我救援隊ニ於テモ竹ヲ踏ミ外シ海濱ニ
 ヲル一老人ヲ救ヒ上げシモ僅ニ五分ヲ経過セザルモ氣絶セルヲ
 以テ直ニ救急法ヲ施シ醫士ノ来ルニ當レシヲ引キ渡セシモ終
 ニ死亡セシモノアリ又落水者ニ三日ヲ経過シタル死体ヲ引キ揚
 ゲ曳引キ渡シタルアリ
 毫カ戸方側ニテハ靴ソ者ハ洗足ニテハ動作不便且危嶮ナラ以
 テ十五日ヨリ草鞋ヲ用ヒシム
 隊員衛生ノ状況ハ頗ル好シ長ナク死ニ至リ輕微ノ傷死タル者
 ヲ出セリ之レ作業上終日身何味ニ腰却ラ水ニ浸シタル者

ナレガ如シ

兵員控所ニシテ無任屋ノ後れ家屋ニ階ラマニシテ蚊張ノ準
備ナリ衣類溼潤シ頗ル困難ニ感ス

車業ノ都合ヨリテリク刻ニ交代者ハ夜十時ヲ過ギテ飯堂正
コトアリ時トシテハ夜間ニ電井戸方面ニ移動スル隊ハ在都館
舎ト引揚ゲシハコトアリ

但シ昼間ニシテカ隊車業ニ従事シ夜間ニシテカ隊出勤スルコトニ
定ム

十五日ヨリ東川カ学校救護所ノ車業ニ従事スル者ハ内ヨリ
四人乃至五人ヲ割テ東町幼稚園救護所ノ雑役ニ従事セ
シム

十六日電井戸方面ノ水量ハ前日ト大差ナシ夕刻隊員ニテ
宿道一名ヲ捕ハ警吏ニ引キ渡ス其他状況前日ニ異ナシ

隊員ノ作業スル 概算所ニ収容スル人員概テ九ノ如シ

国技館 七〇〇〇人

東川カウチ校 一三〇〇人

東町幼稚園 五六〇人

右収容員数ハ概算ニシテ實際ノ員数不明ナリ 収容セラルル權
災者ノ内漸次減水スルニ從ヒ一言ノ挨拶ナクシテ飯食スル者アリ
或ハ食糧等ノ配給ヲ受ケル時ニ於テ其ノ居座ヲ変レテ再三
ノ配給ニ預ルラントスル者アルラウケル然レモ兵員ヲ使用
スレハ或分其弊ヲカカラス

十七日ノ電井戸方面ノ水是漸ク減シ十六日ニ比シ約五六寸
低下セリ

隊員衛生状況。

八月十四日、外傷 二名(内一名水葦止メ)、 合計二

八月十五日 外傷一、内症三、

合計四

八月十六日 外傷二、内症三、

合計五

八月十七日 外傷九、内症三、(内休業二)

合計一二

右外傷^{時傷}輕微ナル擦過傷ニシテ内症ハ急性腸胃カタル

ナレバ一日ヲ経過シテ全治スルモノヨリ要スル^{不潔}浸水^乾連ス

ルガ如キ地臭ニ致ラ着衣浸潤スルモ更衣ナク加フルニ天候不良

ノ際過度ノ労働ヲナスニ拘ラズ如上ノ衛生状況ハ良好

ナルモノト云フハシ

軍紀凡規紀。

隊員一同熱心事業ニ従事シ軍紀凡規紀共ニ良好ナリ

右救護隊編制表

指捕官

附

第少隊

海司少佐上 蹴野金

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

海司少佐連

卒 三十三人

十六人

中隊長
 梅田昌雄
 杉田昌雄
 中隊長
 梅田昌雄
 杉田昌雄
 中隊長
 梅田昌雄
 杉田昌雄
 中隊長
 梅田昌雄
 杉田昌雄
 中隊長
 梅田昌雄
 杉田昌雄

供覽

海

軍務局

救第八號

明治四十三年八月二十日



水災救護隊指揮官

海軍少佐 加村康政 (加村)

海軍大臣 男爵 齋藤 實 殿

(一) 第二次水災救護隊編制左ノ如シ
水災救護事業経過概況報告ノ件

指揮官 海軍少佐 加村康政 (朝日)

指揮官附 海軍少佐 勝 山吉 (海軍)

左 海軍少佐 計 日 高嘉七 ()

左 掌管隊員 (朝日) 看護手 (海軍)

看護三(海兵團)筆記(全上)尉士(全上)

第一小隊

小隊長 海軍中尉 山中順一 (海兵團)

下士卒 (水兵及 機附兵) 四十四名 ()

第二小隊

小隊長 海軍少尉 矢持輝治 (海兵團)

下士卒 (水兵及 機附兵) 四十四名 ()

第三小隊

小隊長 海軍中尉 力石敏三郎 (朝日)

下士卒 (水兵及 機附兵) 四十四名 (二十二名(朝日) 二十二名(香取))

水災救護混成中隊

合計 士官以上六名 下士卒百三十九名

(二十)

横須賀出港以来水災救護隊の動作

一 横須賀鎮守府司令長官代理、依り十八日午前七時三十

分白濱海岸ニ集合前記混成中隊ヲ編成シ浦共立運
 輸株式會社汽船第三號三盛丸ニ乗船七時五十分拔
 錨鑿岸島ニ向テ船内ニ於テ總員ヲ集メ派遣隊ノ目的任
 務救助心得及軍紀風紀衛生上ニ関レ訓示ヲナス午後
 零時三十分永代橋下流ニ投錨前派遣隊指揮官上
 瀧必佐士官及ヒ東京府事務官鈴木隆代理府屬関
 誠東京市長代理助役原田十衛ノ案内ニ依リ午後一時
 三十分日本橋區馬喰町三丁目ノ會場ニ着ス

一、宿舎割左、如レ

本部	士官六 下士卒七	福井屋
第一小隊	下士卒四十四名	福島屋
第二小隊	二十二名	藤森屋
左	十一名	美ノ五屋

第二小隊 下士卒十一名

松崎屋

第三小隊 全 二十二名

會津屋

全 二十二名

大長館

一、旧指揮官ヨリ水災救護ニ関スル亦日迄ノ経過一般概略

ノ申進ヲウレ午後二時三十分出発旧指揮官小隊長全

道ニテ小隊ヲ率ヒ交代ノ爲ニ配置地点ニ向フ

亦日ヨリ明十九日朝ニ至ル迄ノ配置ヲ先ツ後前ノ通りト

定メ各地点ニ至リ新編遣隊員ヲ配置シ交代セシム

午後四時交代ハ完結ス

一、兵員ノ配置、勤務作業等左ノ如シ

亀戸方面

天神橋炊出場 下士二名、卒二〇名

吾嬬橋(旧北橋)炊出場 下士一名、卒一〇名

五ノ橋炊出場 下士一名卒一〇名

本所深川罹災者救護所

本所國枝館(救護所) 下士二名卒二〇名

深川東川小學校(救護所) 下士一名卒一〇名

左 東町幼稚園(救護所) 下士一名卒一〇名

亀戸方面ハ午後八時三十分事業結了セシテ以テ派遣隊

ヲ撤去シ九時三十分宿舎ニ帰着ス

救護所ハ國枝館ニ一隊、東川小學校ニ五名ヲ残シ徹

宵勤務セシ他ハ午後九時ヨリ十時迄ノ間ニ夫々勤務ヲ撤シ

歸舎ニ就カシタリ尤モ幼稚園ハ先方ヨリ宿直ノ必要ナキヲ

云ヒ深川分署モ密接スニヨリ夜間ノ勤務ヲナサレシ

救難作業ハ亀戸方面ニ在リテハ府市吏及警察官ト

協力シテ通船ノ取扱、糧食、寄贈品ノ配給、炊出場

補助、應急袋製作等、後事レ救護所ニ任ラテハ糧食
 寄贈品ノ分配及ヒ警戒ノ一部ニ任ス
 一、配置地魚視察ノ概略 亦日視察スル所ニ依レハ罹災者
 救護所ハ何レモ整頓第二期救護時代ト称スルヲ得ヘク、最
 戸方面ハ尚ホ多ク、努力カラ要スヘキ惨状ノ有様ニアリ最
 高水面ヲ既ニ約ニ尺五寸位減水シ居ルノ形跡ヲ認ムルモ
 初メテ見ルモノニハ豫想外ノ感ヲ深カラシメタリ
 南葛飾郡吾孺村ノ吾妻彦市丸モノ、懇請ニヨリ吾孺
 村方面ノ概視ヲナセルニ其方面ノ惨状ハ特ニ甚多シク殊ニ各
 主務廳ノ連絡ナキ盡カモ未タ其ノ迄ニハ及ヒ塔ラサルヲ認メ
 府吏ト協議ノ上明日ヨリ大ニ助カスヘキヲ約セリ、要スルニ水
 害地惨害ノ程度ト其救護事業ノ普及ハ反比例ノ境
 ヲ示シ居ルヲ推察スルコトヲ得タリ

一、兵員ノ動作、軍紀、風紀、健康状態等

新交代員ノ交代ト同時ニ新タテ鏡氣ヲ以テ活動シ極力
作業ニ従事セリ殊ニ出来得ル迄ノ撰抜シ来ルノ故ヲ以テ
軍紀風紀上ノ点ニ於テ遺憾ナシ、亦日一人ノ傷病者ナク
健康状態甚ク良好ナリ

(三)十九日ノ概況

一、午前四時三十分起床五時三十分出發者小隊ノ配置ニ就クト昨日
ニ立止但し右ノ外昨日視察ノ結果南葛飾郡吾嬬村一圓ハ
水深甚ク大ミシテ其慘状海員ニ想像以上ニアリ且ツ今日迄唯僅
少ナル村民トニニ隻ノ小舟ミテ全ク外部ヨリノ助カヲラシテ救
助ニ従事セリ、ア結果被害民ハ幸クシテ命脈ヲ保タツ、ア
、空躬快ヲ呈シ居ルヲ以テ府ノ当局者ト協議ノ上本日ヨリ
此地ニ新タテニケ分隊(下士ニ者卒ニ者)ヲ配置シ應急機

ヲ造リ破船ヲ修復シ人民交通ノ便宜ヲ圖リ兼ネテ水糧
ノ食等ノ配給ニ從事セシメリ本地兵ハ明日ヲ晝夜共共負
テ配置シ必要ニ應ジ更ニ増員シテ極ク救助ノ目的ヲ果タス
豫定ナリ

本日亀戸方面ニテ一小隊ヲ出勤セシメ、救護所ハ一小隊ヲ
以テ晝夜交代ニ勤務セシム
一、共負ノ配置左ノ如シ

○晝間（作業撤去引揚ハ時、帰管ハ時四十五分）
亀戸方面

天神橋炊出場 下士二名卒二名、看護一名

吾孺橋炊出場 下士二名卒二名

五ノ橋炊出場 下士二名卒二名

吾孺村請地一月 下士二名卒二名、看護一名

救護所

國枝館

下士一名卒一〇名看護手一名

東川小學校

下士一名卒一〇名

東町幼稚園

下士一名卒一〇名

◎夜間(午後八時より翌朝交代迄)

國枝館

下士一名卒五名

東川小學校

卒三名

◎必要ナル雜役員卒二名

一、本日軍醫官巡視中吾郷村に於テ溺水者二名アリ直子ニ

現場出張手當ヲ施シタルニ一名ハ傷ヲニサ蘇生シ一名ハ道ニ

其効ナラシテ死没セリ共ニ関係者ニ引渡セリ

一、勤務作業等ハ昨日ニ同シ

一、配置地点巡視ノ概略

深川田向院方面ハ各救護所共ニ市吏、警署、警察官及赤十字社
 員其他関係諸員多敷出張シ諸設備モ一般ニ救急頓居ハ
 共員配置ヲ漸次減シテ慘状甚キニ亀戸吾嬭村方面ニ其
 救護勢力ヲ増加スルノ考アリ明日頃ヨリ海員行セントス
 亀戸方面ハ天神橋、吾嬭橋(旧北ノ橋ト云フ)五ノ橋各炊
 出場ヲ本據トシテ共三橋ノ境界トせん三角帯區域ヲ維持
 ナ救護作業ニ従事ス共附近ハ水深三、四尺以上ニシテ浸水家
 屋ノ二階又ハ家屋根ニ避難セルモノ頗ル多シ減水ハ甚ク行々
 ミシテ昨日ニ比シ三、四寸位ニ過キス共附近ニテ吾人ノ使用し得ハ
 キ通船ハ其数甚ク少ナリ約六名ヲ乗セ得ルモノニ隻三名ヲ乗セ
 得ルモノ約八隻ニシテ重モ水糧食艀結、市吏人民ノ交通ニ
 充テモミシテ海軍専用ノモノハ一隻モセテ必要ナル地視或ハ看
 護部員巡回各部隊間ノ聯絡ノ如キハ只一時ノ間其中、一、二隻

ヲ使用し得ルニ過キス

南葛飾郡音場村字請地方面ハ其位四置稍ヤ遠隔ノ然ラシムルニ
カ或水災地廣濶ノ爲ノ當然手廻ハルニ兼ネタルニ免ケ免ケ角
府市廳ノ注意ヲ惹カサシモ、如ク救護事業業人等振ハス殊ニ其圍
域モ廣ク人家モ稍マ散在スラ以テ一層救護ニ困難カカ如ク水深
又大ニシテ五六尺以上及ヒ丈余ニ達スル所又少カラス極メテ深クニ
減水シテアルニハ相違ナキモ葛西川村ノ如キハ出水ノ當時多ク僅カニ
五寸位ニ減シタルニ過キス使用船毎ハ全体ニテ僅カニ三四尺ニ
過キス其不備用難ク收態ニ天神橋吾妻橋方面ニ比ヒテラス
數倍スルノ有様ナリ、本日我ニ二十名ノ兵員出張ヲ見テ吾妻村
々民ノ喜悅大ニ方ナラス殊ニ葛西川附近一帯ノ住民ハ初メテ
部ノ救助ニ遭遇シタリトテ我ニ兵員ノ姿ヲ見タリトシテハ、勇氣
ツケリト云フ巡視中ノ御蔭福デ「御苦勞極デ」等ノ挨拶ヲモテ

アリ又敬礼ヲナスモノ見ラセ電戸方面ノ是等ノ事ハ皆無ナルニ
比シテ其ノ窮状ノ一般ヲ推察スルニ是レハ明日ヨリ屬増員ノ慮ヲ深
カラシメタリ

一、兵食ノ動作軍紀風紀健康状態等

作業ニ慣ルルニ後ヒ確實敏捷ニ屬熱心ニ如カレタリ後ヲ町
村民ノ感謝ハ勿論見ル者ノ賞賛ハ博シマアリ紀律又嚴正ニ一点並
キモノナシ本日も一人ノ傷病者ナシ健康状態甚々良好殊ニ志氣益
々揚リ尚ホ一層如カカラシ得ルニ手紙ヲ示スモノノ如シ

一、海軍大軍艦隊ヲ灣中ニ泊ル日午後四時半至

附記

一、昨日午後東京より隅田川下流ヲ見シ又行々市街並ニ市民ノ有様ヲ見ラ殆
シト水害ノ何處ニ在ルカヲ知ラサカ如クナリモ一度高層ビル等場ノ邊キラ電ノ方面ニ

向テヤ尚ホ慘憺ニ水災ノ現状ヲ目撃シテ亀ノ方面ニ至リテ其慘狀一層見ルニ
 忍テガハレモノアリ尚ホ一歩ヲ進ムニテ却テシテハ其悲慘ノ狀言ヲ絶ス殊ニ通船
 シヤキニ爲シ炊キ出シ場ヲ去ルニテ遠キニテハ糧食水等結集充合ナク
 餓餓ニ迫ルモノ之ヲ訪フ者稀ニシテ外ニ出ニトスルニモ通船ノ道遠ニテハ困
 難ヲ訴ルモノアリ然レモ概括スルハ老幼傷病者等ニ多ク既ニ避難所等ニ
 逃シ目下ニ階級根上等ニ起塔スル者ハ壯者若ク壯者ヲ伴ハルモノシテ糧
 食水ノ結集モ先ツ不自由下ニ行角キ生命ノ危險大ニナキモ如レ唯吾孺
 村ヲ北及東ニ位置スル村々如キ即チ葛西川附近西方一帯住民慘狀ニ
 至リテハ一層甚クカシクテ想像スルニ止ルニ十九日午後所謂向島
 堤防ヲ長驅シテ堤防決潰ノ場所ニ至リ南東方面ヲ見渡シテ其水
 災全般ノ想像ヲ見テ後ノ復旧ノ決シテ容易ナラザラ拵察し復タリ又
 千住方面ノ其現状亀ノ方面ニ比シ違カニ良好ノ状態ニシテトヲ知レリ
 一水深ハ漸次減小シテマモ中川綾瀬川堤防未タ復旧セザラ以テ余ノ決

々數カラスガ分徒歩し得ん見込し後我々救護事業モ尚テ數日屢
スレト思考せん外未タ確タル見込ヲ立ラ難シ青橋村附近ノ現狀ヲ見
ツ我故救護隊ノ初渡ノ救護カ村民ヲレテ暗思神ノ一燈ヲ得タルカ如キ
感ヲ興ハタルヲ知ルニ及ニテハ一層其感ヲ深クせんモアリ

一、水ノ減るニ程ヒ家屋洗方家財取片付等ノ爲ノ一旦避難せんモノ
ノ中ヨリ還へり来ルモノアルヲ以テ被害地ニ於ケン炊出し諸船結事

業ハ官口却テ多ク在ニテクノ傾キヤルモノ如シ

一、復方方面ヲ以テ慘狀想像外ニ甚クシキハ前ノ辱々ヲ記ス所ノ如キヲ以テ尚ホ
我海軍救護隊ノ活動ニ待ツ所大ナリト認ム程ヲ出来得ハクハセメラ
若干ノ自用傳馬船類ノ派遣ヲケシモ希望スル所ナリ

一、軍醫官者數部員モ目下ノ処其派遣數多キ丈ケ一層其実効ヲ擧
クンモノト認ム既ニ罹災民施濟者十八日ニ四十名九日ニ四十三名ノ多キ及ヘリ

右報告ス

(結)